

基本政策推進専門調査会

「大学院における高度科学技術人材の育成強化策検討ワーキング・グループ」における審議経過について 概要

課題認識

産業の国際競争力の維持、向上のためには、国際的に活躍できる高度産業人材の育成が不可欠であり、体系的教育を受ける最終機会である大学院教育の抜本的強化に国を挙げて取り組む。

課題解決の方向性 ~ 大学院教育の「見える化」の推進 ~

1. 人材育成目的の具体的発信

各大学院は、人材育成目的を、国際的水準で早急に具体化し、産業界を含む社会へ発信。

2. 伝承型から体系型へ

各大学院は、具体化された人材育成目的に合致した体系的カリキュラムや教育プロセスを構築、発信。

3. 大学院生への経済的支援

国や産業界は、優秀な大学院生への経済的支援を充実し、学生の社会的自立を促す。

4. 自立を助ける適性指導

各大学院は、教育プロセスにおいて、各人の適性に応じた、複数教員による逐次的な進路指導を実施。

5. 適切な教育活動の評価

各大学院は、教員の教育面の取組状況を、研究科等の組織の責任の下で適切に評価する制度を構築。

6. 能力、到達度の質の確保

各大学院は、教育プロセスの「見える化」により、国際的に活躍できる学位取得者の質を保証。

7. 博士の適正評価

産業界は、厳正な評価によって学位取得した博士号取得者を、積極的に採用。